

令和８年度第１回香取海匠地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 開催結果

１ 日 時

令和８年８月２８日（金） 午後１時３０分～午後３時５分

２ 開催方法

Ｗｅｂ開催（Ｚｏｏｍによる）

３ 出席者

委員総数２５名中２１名出席

兒玉委員、増田委員、保津委員、堀越委員、佐久間委員、篠崎委員、
野村委員、菊地委員、露口委員、大橋委員、高野委員、郡司委員、
下谷委員、黒柳委員、小川委員、長谷川委員、澤田委員、宇佐美委員、
高木委員、久保委員（会長）、鎗田委員

医療機関関係者 １３名出席

４ 会議次第

（１）議事

- ア 新たな地域医療構想の策定について
- イ 千葉県保健医療計画の中間見直しについて
- ウ 病床数適正化緊急支援事業について
- エ 地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業について

（２）報告事項

- ア 令和７年度病床機能報告の結果について
- イ 新たな地域医療構想に基づく医療機関機能報告及び病床機能報告について
- ウ 医療機関毎の具体的対応方針について
- エ 地域医療介護総合確保基金による各種事業の実施状況について
- オ 次回調整会議の予定について

５ 概要

（１）議事

- ア 新たな地域医療構想の策定について

資料１により健康福祉政策課政策室から説明。国が示した新たな地域医療構想の考え方を踏まえ、構想区域の見直し案について説明があった。

新たな区域については、人口規模及び患者の受療動向を踏まえた複数の再編案が示され、地域の意見を聴取した。

（旭中央病院）

受療動向及び人口規模の観点から、案１が最も実態に近いと考える。一方で、案１では夷隅安房君津地域が広くなりすぎる懸念もある。

(千葉県立佐原病院)

構想区域が広域化し過ぎると住民の受療行動との乖離が生じるため、案1が現実的であると考え。また、今回の議論の対象となっていないが、各区域における拠点病院の有無を考慮しても案1であると考え。

(香取郡市医師会)

20万人という人口規模を基準に新たな構想区域を設定しているが、この人口規模に対する医療従事者数については今後減少が見込まれており、医療従事者の確保についても考慮しているか。

(健康福祉政策課)

医療従事者の確保は今後の地域医療提供体制の議論において重要な課題であり、新たな構想区域を設定後に各地域で議論を進めていきたいと考えている。

(地域医療構想アドバイザー)

構想区域の見直しの考え方として、人口規模と受療動向を基本に区域の拠点病院を含めた医療提供体制が区域内で完結するよう県が案を示している。

また、従来から連携してきた医療機関同士が継続的に協議できる区域を設定することも重要である。

イ 千葉県保健医療計画の中間見直しについて

資料2により健康福祉政策課政策室から説明。

保健医療圏、基準病床数、外来医療、医師確保及び在宅医療等について中間見直しを行う方針が示された。意見・質問等なし。

ウ 病床数適正化緊急支援事業について

資料3により医療整備課地域医療構想推進室から説明、対象医療機関から次のとおり説明があった。意見・質問等なく、事業活用について協議が整った。

(島田総合病院)

24床を削減する予定で現在休床としているが、一部病床については来年1月頃から再稼働を予定している。基本的な状況は前回の会議で説明したとおりである。

(内田病院)

医師及び看護師等の確保が困難な状況であり、病床削減を実施する予定である。

(国保匝瑳市民病院)

令和8年12月までに4床削減する予定である。令和7年9月に同事業を活用して、急性期84床を74床に削減しており、本年12月末の病床数としては、急性期70床、回復期15床の計85床となる。削減理由として、4人部屋を3人部屋へと変更することで療養環境の改善を図る予定である。また、地域医療構想の観点から、当地域では急性期病床が過剰、回復期病床が不足の状況となっています。令和10年度に建て替え整備予定の新病院においては、急性期病床が35床、回復期病床35床の計70床への削減を予定しており、今回の病床削減は、新病院の病床運営を見据え、急性期病床を段階的に削減し、地域医療構想に沿った病床機能に合致すると考えている。

(山野醫院)

当院は数回に分けて病床を削減しており、今年5月に病院から診療所へ転換した。本地域の慢性期病床は必要数を充足し、100床以上超過していると推計されている。そこで、中長期的な地域の需要を踏まえ、外来及び在宅診療へ重点を移すため、病床削減を実施する。背景として、地域の看護師確保が困難であることや人件費や業務委託費等の必要経費の高騰していることも関係している。

エ 地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業について

資料4により健康福祉政策課政策室及び千葉大学医学部附属病院から説明。

今年度は新たな地域医療構想に向けた課題の分析やがん医療提供体制検討に資する分析を中心に実施することが報告された。

(地域医療構想アドバイザー)

より精緻な情報を医療機関単位に落とし込んでいくことで、昨年度以上の詳しい結果を報告できると期待している。

特に具体的な指標の1例として、医療機関毎の疾患別の在院日数の長さと、特にDPC病院における包括出来高差という尺度がある。これは、例えばある疾患がなぜ在院日数が長いのかについて、決してその病院の問題ではなく、その後の受け皿がないから、その病院に入院せざるをえないというケースも多々あり、全国的に高齢者疾患がその対象となっている。

そういったデータを会議で共有することで、これだけの患者をこれだけの在院日数で急性期病院において診ているというのを、どのように地域に返し、かつ後方支援病院で受けられるのかといった議論ができるのではないかと期待している。その結果、急性期病院の集積機能として、高回転な医療に繋がり包括出来高の指標も改善するのではないかと考えている。

もう1点、急性期拠点病院を決めるときの指標の出し方として、主に救急搬送入院の手術の事例といったものを見ている。全体で見る方法と、夜間・休日のみに置き換えてみると全然景色が違ってくることもある。

例えば手術件数が非常に多い病院であっても、夜間になると途端に手術をほとんどしていないといったケースがある。その手術の重症度にもよるが、難易度も含め拠点病院である以上、幅広い疾患を夜間休日含めてどれくらい受け入れているのかという状況をデータで示し、今後の議論の参考になると考えている。

(旭中央病院)

茨城県鹿行地域からの患者流入が多い実態があるため、可能であれば県境を越えた患者動向も分析対象に含めていただきたい。

(千葉大学医学部附属病院)

公表データ等を活用しながら、周辺地域を含めた分析が可能か検討したい。

(会長)

構想区域の変更に伴い患者動向が重要となるが、今回のデータ分析でどういった貢献ができるのか。

(千葉大学医学部附属病院)

今回のデータ分析では市町村単位での分析を行っているため、県が示した新たな構想区域の案毎に患者動向を示すことができると考えている。

(2) 報告事項

ア 令和7年度病床機能報告の結果について

資料5により医療整備課地域医療構想推進室から報告。

香取海匠圏域においては、高度急性期及び回復期病床が不足し、急性期及び慢性期病床は充足している状況が報告された。意見・質問等なし。

イ 新たな地域医療構想に基づく医療機関機能報告及び病床機能報告について

資料6により医療整備課地域医療構想推進室から報告。

今後開始される医療機関機能報告及び病床機能報告制度について説明があった。意見・質問等なし。

ウ 医療機関毎の具体的対応方針について

資料7により医療整備課地域医療構想推進室から報告。

今回、具体的対応方針の変更を行う医療機関はないことが報告された。

また、推進区域の取組終了について説明があった。意見・質問等なし。

エ 地域医療介護総合確保基金による各種事業の実施状況について

資料8により健康福祉政策課政策室から報告。

地域医療構想の達成に向けた施設整備、在宅医療の提供、医療従事者の確保、医師の働き方改革の推進等に関する基金事業の実施状況について説明があった。意見・質問等なし。

オ 次回調整会議の予定について

次回会議は令和8年10月中旬から11月中旬頃の開催を予定していることが報告された。

(3) 全体を通じての意見等

(地域医療構想アドバイザーのコメント)

厚生労働省で公表されているデータを確認したところ、茨城県の鹿行地域の12.7%が本地域へ流出していた。また、香取海匠地域視点から見ると、高度急性期・急性期患者の10.9%が茨城県からの流入となっており、今後も一体的に考えていかななくてはならない。

その上で、前半で御指摘のあったような人材確保の視点や後方支援となる介護については、今年度にデータ等で示すのは難しいように想定している。

ただ、そういった問題点を考慮すると、何でもかんでも急性期病院等が受けていくということは、限られた医療資源では難しい面もありますので、特に市町村が把

握されている介護の状況や在宅の状況等といった住民の健康福祉をどれだけ充実させられるかというところが、医療機関の持続可能性にも繋がっていくと考えている。

来年度以降、構想区域が見直されたとして、新しい枠組みの中で議論されることとなるが、それ以外の在宅や介護といった市町村や保険者単位の会議においても、この新たな医療構想を知っていただく必要があり、そういった場で解決策や連携について協議していくことが非常に大事ことであると考えている。

地域全体で共通認識を持ちながら、今後のどのようにしていくかといった協議を引き続き進めていきたいと考えている。